

強者の戦略

今回は漢詩です。出典は陶淵明の『雜詩其一』で、非常に有名な漢詩ですね。15分程度で解いてみましょう。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

人^a生^ハ無^ク根^ニ蒂^{（注1）}
飄^{トシテ}如^シ陌^{（注2）}上^ノ塵^ニ
分^レ散^シ逐^{ツテ}風^ヲ轉^ジ
此^レ已^ニ非^ズ常^ノ身^ニ
落^{チテ}地^ニ為^ル兄^ト弟^ト
何^ソ必^{ズシモ}骨^ノ肉^ノ親^{（注3）}
得^{テハ}歡^ヲ当^ニ作^{ナス}楽^{シミヲ}
斗^ニ酒^{（注4）}聚^{（注5）}比^レ隣^ヲ
盛^ニ年^{（注6）}不^ニ重^{（注7）}来^ニ
一^ニ日^{（注8）}難^シ再^{（注9）}晨^{（注10）}
及^{ンデ}時^ニ当^ニ勉^ス励^ス
歲^ニ月^{（注11）}不^レ待^タ人^ヲ

（注）蒂一（植物の）へた。

陌一 道。

晨一 朝・早朝。

強者の戦略

- (一) 「人生無_二根蒂_一」(傍線部 a)とはどういうことか、簡潔に説明せよ。
(二行)
- (二) 「何必骨肉親」(傍線部 b)とはどういうことか、簡潔に説明せよ。
(二行)
- (三) 「一日難_二再晨_一」(傍線部 c)とあるが、わかりやすく現代語訳せよ。
(二行)
- (四) 「当勉励」(傍線部 d)とはどういうことか、漢詩全体の趣旨を踏まえてわかりやすく説明せよ。
(二行)

強者の戦略

【解答】

(一) 人生には、植物の根やへたのようなしつかりとした抛り所がなく、不安定で移ろい易いものであるということ。

(二) 血縁者だけを親類と考える必要はなく、地上の人間は全て同類であるということ。

(三) 一日に二度「再び」朝がやって来ることはない。

(四) 人生は不確かであるかも知れず、またそれぞれの時間は一度しかかけがえのないもので、楽しむべき時は機会を逃さず皆で精一杯楽しむべきだということ。「その時その時を精一杯充実させて生きるべきだということ」

【解説】

漢詩には独特のルールがあり、特に近体詩の読解では基本的なルールの理解が重要である。今回のような「排律（十句以上の詩形）」の場合、まずは二句で一つの「聯」を形成することを意識して、「聯」ごとに内容を考える必要がある。今回の問題は「聯」ごとに考える癖をつけてもらうため、敢えて（一）（二）（三）まで同じように「聯」に注目して内容を考える問題としてある。

(一) 「根蒂」という比喻を理解するには、二句目の「飄如陌上塵」と併せて考える。「飄」は「つむじ風」という意味もあるが、「飄泊」「飄転」など「漂」と同じく「ただよう・さまよう」という意味もある。人生には「根やへた」がなく「ただよう・さまよう」と考えれば、「抛り所がなく不安定だ」と理解できるだろう。

(二) これも対になる「落地為兄弟」と併せて考える。「骨肉の親」が「親子・兄弟などの血を分けた間柄」という意味であるのは常識だろう。

(三) これも対になる「盛年不重来」と併せて考える。「盛年（若い盛りの時）」は二度と来ない」とセットで考えれば理解は容易である。「一日」には「ある日」という意味もあるが、ここでは文字通り「一つの日」と理解しよう。なお「難し」はここでは「くじづらい」ではなく、「くじできない」と理解すること。

(四) 「勉」も「励」も「努める・はげむ」の意味であり、現代の所謂「勉強」と誤解してはならない。七句目に「当作楽」とあるように、ここでは「精一杯楽しむ」意味と理解すべきである。ただ、陶淵明自身はそこまで享乐的な詩人ではないため、「その時その時を精一杯生きる」くらいに理解しても構わない。あとは漢詩全体の要約を意識して、「人生は不確かだ」「それぞれの時は一度しか来ない」などの内容を盛り込もう。

強者の戦略

【書き下し文】

人生は根蒂無く
飄として陌上の塵のごとし
分散し風を逐つて転じ
此れ已に常の身に非ず
地に落ちて兄弟と為る
何ぞ必ずしも骨肉の親のみならんや
歎を得ては当に楽しみを作すべし
斗酒比隣を聚めよ
盛年重ねては来たらず
一日再び晨なり難し
時に及んで当に勉励すべし
歲月人を待たず

【通釈】

人の命には植物の根やへたのような、しつかりした拠り所がない
漂い彷徨っており路上の塵のようだ
ばらばらになつて風のままに飛ばされ
この身は既に以前と同じ姿ではない
地上に生まれ落ちて兄弟となるのは
どうして血を分けた親族だけである必要があるうか
嬉しい時には当然楽しくすべきだ
たくさんの酒で近所の仲間を集めるのだ
若い盛り時は二度と来ないし
一日に二度と朝になることもない
機会に応じて当然（行楽に）努め励むべきだ
時は人を待ってはくれない